

報告「中国留学生便り」

全中国中医薬大学日本人会 会長
神戸東洋医学院 研究員
崔衣林

中国留学は、中医を目指す者にとって、省略できない過程です。しかし1970年以来の先輩方を見ると、日本へ帰国後に違う職種に就職したりして、中国中医を実践することは難しく、中医をあきらめてしまう方が多いという現実を知りました。これはその個人だけの挫折で済む話ではなく、若手人材を常に流出している日本中医業界全体の損失であると言えます。そこで北京や上海など中国各地で留学中の在校生が中心となり、全中国中医薬大学日本人会を立ち上げ、中国各地と日本の情報を共有し、更に今の中国中医を日本へ伝える活動を日本中医学会の指導の下、進めております。今回は、本科生、修士生、卒業生と異なる段階の方から、今の中国中医をご紹介します。

中医薬大学での学習や生活の具体例

上海中医薬大学本科 在学
中島伽予

私が中国に留学する前は現地の情報も少なく、お知り合いもおらず、不安がたくさんありましたが本場の中医を学びたい一心で中国に渡りました。どんな事を学ぶのか？ カリキュラムは？ 中国語は？ 病院実習は？ 生活は？ クラスメイトは？ 安全面は？ 帰国後は？ などの疑問や不安がたくさんありました。

今回はこの機会をお借りして現在大学4年生の私が体験した事、考えている事を皆さんにお伝えしたいと思います。

中西医结合によるガン治療の進展

東京都出身、北京中医薬大学 本科・修士 卒業、中日友好病院研修
北京アリオン腫瘍センター 中医師
草野 優

腫瘍学は、私の大学院時代の研究テーマでもあり、中日友好病院にて専門的に臨床を学び、現在は腫瘍学専門病院に勤めています。今回はこの腫瘍学について中西医結合の視点から話していきたいと思います。

中国中医学と日本鍼灸の教育環境の違い

奈良県出身、天津中医薬大学研修
日本教育財団 大阪医専 教務部鍼灸学科
菊地浩輝

中医薬大学における中医学教育と日本の鍼灸学校における東洋医学教育の違いとして感じたことや、今後の日本の鍼灸教育に対する展望に対する考えを述べたいと思います。